

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施 設 名	あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	9,024	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	9,024 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

1. 事業概要

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利ユースオーケストラ 2023	4月1日～3月22日	曲目：J. シュトラウス2世 / 観光列車 ほか 講師：常任指揮者：工藤俊幸、ヴァイオリン：風岡優 ほか	目標値	60
		足利市民プラザ 足利市民プラザ別館		実績値	42
2	文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利ミュージカル研究科第12期	6月3日～2月18日	演目：演劇「かぐや姫」(脚本・演出/小嶋希恵) 講師：小嶋希恵(芸術監督)ほか	目標値	30
		足利市民プラザ		実績値	42
3	文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利オペラ・リリカ 研究科第12期	6月21日～3月13日	演目：モーツァルト作曲/オペラ<<コジ・ファン・トゥッテ>> 講師：大隅智佳子(音楽監督)ほか	目標値	5
		足利市民プラザ 足利市民プラザ別館		実績値	4

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>当館は「文化芸術の鑑賞・体験・創造ができる場」、「文化芸術を通して交流ができる場」、「子どものための文化芸術の場」の役割を果たすべく、地域の特性を活かした事業を予定通り推進しました。</p> <p>① 「NHK交響楽団」「佐渡裕指揮の演奏会」「野村万作・萬斎による足利狂言」等の日本を代表する公演を開催し、併せて市内小学校等へのアウトリーチを行い子どもたちに貴重な体験の場を創出しました。また、当館のミュージカル他芸術団体による実演芸術公演と体験・参加型プログラムを実施しました。さらに、地域住民の文化芸術活動の場として、シニア劇団「燦S A N」や各種文化芸術グループを支援し創造の場を提供しました。</p> <p>② 生涯学習活動の場としての住民の交流をはじめ、当館芸術団体「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」の市民参加型公演による文化交流、劇場に足を運ぶことが困難な方への当館芸術団体のアウトリーチ実施により積極的な交流を行いました。また、地域の土産店と連携し、公演鑑賞者へチケット半券サービスを行うことで地元商店との交流も生まれました。</p> <p>(以上の①②は助成対象外事業)</p> <p>③ 「足利ユースオーケストラ」の活動や、当館芸術団体による子どもを対象とした「足利ミュージカル研究科」等の人材養成事業、<u>0歳から参加できるコンサートを継続して開催しました。</u>また、<u>市内小中学校と連携して40年以上続く「足利市小中学校芸術教室」は、鑑賞型教室の他にも、音楽・伝統芸能のアウトリーチやミュージカル体験ワークショップを行うなど、子どもたちのための充実した芸術環境づくりに取り組みました。</u>(下線部は助成対象外事業)</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>人材養成事業1～3「足利ユース・オーケストラ2023」「足利ミュージカル研究科第12期」「足利オペラ・リリカ研究科第12期」</p> <p>○文化的意義</p> <p>子どものためのオーケストラ・ミュージカル・オペラの演奏技術習得の場を継続して作り出し、技術向上を図ることが出来ました。その結果、音楽大学進学や、宝塚音楽学校に挑戦するなど、文化芸術活動を志望する子どもたちが増えました。</p> <p>○社会的意義</p> <p>「足利ユースオーケストラ」のアウトリーチの公演依頼が他市からもあり、アウトリーチの回数もコロナ禍前よりも増加しました。「足利ミュージカル研究科」は、小学生から大人までが在籍し、市外からの参加者も20%を超え、新たに在住外国人も加わるなどの交流も見られ、地域の芸術活動の活性化につながっています。</p> <p>○経済的意義</p> <p>各事業の講師、受講者は市外、県外から来ている方の割合が多く、「足利オペラ・リリカ研究科」は大方が県外です。「足利ミュージカル研究科」は20%以上が市外を占め、「足利ユースオーケストラ」の受講者は40%近くが市外であり、今回の有効性の評価項目では目標値を達成し、交流人口が増加したことで、飲食や旅費等で地域への経済効果が認められています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標1：事業の参加者数をコロナ禍以前の令和元年度以前の水準への回帰を目指すとともに、新規参加者の増加を図ります（事業番号1と3）。★ミッション1～3およびビジョン2と4に該当。

事業名		目標値		実績値		達成率	
		参加者	内、新規	参加者	内、新規	参加者	内、新規
事業1	足利ユースオーケストラ 2023	60名	10名	42名	6名	70.0%	60.0%
事業2	足利ミュージカル研究科第12期	30名	10名	42名	8名	140.0%	80.0%
事業3	足利オペラ・リリカ研究科第12期	5名	2名	4名	2名	80.0%	100.0%

事業1は、参加者、新規参加者ともに目標達成できませんでした。その要因として、近隣地域において少子化の進行が顕著であることが挙げられます。今後は、近隣紙の広報誌に募集掲載などの親子がよく目にする媒体を活用します。事業2は、参加者の目標を達成できました。

事業3は、参加者は目標達成できませんでしたが、新規参加者は目標を達成できました。

目標2：参加者が足利市内または足利市外のどちらか一方に偏らないよう努めます（最低でも30%）（事業番号1と2）。★ミッション2、ビジョン4に該当。

事業名		目標値		実績値		達成
		市内	市外	市内	市外	
事業1	足利ユースオーケストラ 2023	70.0%	30.0%	62.0%	38.0%	○
事業2	足利ミュージカル研究科第12期	65.0%	35.0%	78.6%	21.4%	△

事業1は、目標を達成できました。近隣市の子どもの参加があり、参加児童の学校区を超えた交流を文化芸術を通して実現することができました。

事業2は、目標達成できませんでした。この要因として、コロナ禍が明けたことから、足利市の隣市である群馬県太田市において、市民参加型ミュージカル事業が再開されたことが挙げられます。そこに講師として足利ミュージカル芸術監督および足利ミュージカル団員が関わっていることから、足利ミュージカル研究科生も参加するようになりました。これにより、地域のミュージカル人口が増加し、文化芸術を通じた交流がより活発になったと言えます。

目標3：サポーター数の増加を目指します（事業番号1～3）。★ミッション2に該当

事業名		目標値	実績値	達成率
事業1	足利ユースオーケストラ 2023	20名	27名	135.0%
事業2	足利ミュージカル研究科第12期	50名	78名	156.0%
事業3	足利オペラ・リリカ研究科第12期	25名	25名	100.0%

すべての事業において、目標を達成できました。コロナ禍以前と同等またはそれ以上のサポーター数を得ることができました。子どもたちの活動が再開されその成果・成長を見た観客に、改めて本活動を支持・応援していただきました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○事業1 「足利ユースオーケストラ 2023」

養成プログラム期間 4月1日～3月15日（毎週土曜15時～）中に、10月7日「オータムコンサート」を開催し、養成プログラム終了後3月16日に「第15回定期演奏会」にて成果発表会を開催し、当初の計画通りに適切な事業運営を行いました。

○事業2 「足利ミュージカル研究科第12期」

養成プログラム期間 6月3日～2月17日（毎週土曜キッズコース17時10分～、レギュラーコース18時30分～）を修了後、2月18日に修了公演を開催し、当初の計画通りに適切な事業運営を行いました。

○事業3 「足利オペラ・リリカ研究科第12期」

養成プログラム期間 6月7日～3月12日（毎週水曜）を修了後、3月13日に修了演奏会を開催し当初の計画通りに適切な事業運営を行いました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○事業1 「足利ユースオーケストラ 2023」

下表のとおり、決算額が要望額比 65.45%と差異が生じました。

番号	事業名	要望時 (A)	決算時 (B)	要望比(B)/(A) (C)
1	人材1:文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのころ～ 足利ユースオーケストラ 2023	15,140,000	9,908,389	65.45%

(発生要因)

- ・団員の減少により演奏希望者がいないパートがあったことで、そのクラスの年間の講師謝金、旅費等が支出されなかったため。
- ・アウトリーチの出演依頼が想定回数より多かったため、その分、練習日が減ったことで講師謝金等が減少したため。

○事業2 「足利ミュージカル研究科第12期」 ○事業3 「足利オペラ・リリカ研究科第12期」

下表のとおり、要望時にほぼ適切に積算されて計画通りに事業を実施しました。

番号	事業名	要望時 (A)	決算時 (B)	要望比(B)/(A) (C)
2	人材2:文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのころ～ 足利ミュージカル研究科第12期	3,905,000	3,306,861	84.68%
3	人材3:文化芸術の「足利学校」～アートでつなぐ、学びのころ～ 足利オペラ・リリカ 研究科第12期	2,831,000	2,503,802	88.44%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

○事業1 「足利ユースオーケストラ 2023」

統括をする元群馬交響楽団コンサートマスターの風岡優講師のもと、地域の子どもが文化芸術に触れる場・演奏技術を学ぶ場として15年以上の活動実績があり、現在は、市外からの参加者も増加し、団員は卒団後も定期演奏会に賛助出演するなどの交流が続いています。

講師も地域の音楽活動家が務めているほか、保護者や地元協賛企業がその活動を支え、サポーター数も増えて今年度の目標値を達成（達成率135.0%）していることから地域全体で子どもたちの芸術活動を支援している団体と言えます。今年度のアウトリーチ出演は、コロナ禍前より増加し、地元紙にも複数回掲載されました。近隣市からもアウトリーチの依頼があり、地域の文化拠点としての機能を発揮している優れた事業であると言えます。

○事業2 「足利ミュージカル研究科第12期」

当館は、芸術団体「足利ミュージカル」と「足利ミュージカル研究科」を常設しています。これらの事業を統括しているのが、小嶋希恵芸術監督です。「足利ミュージカル」は定期公演やアウトリーチ活動を当館を拠点に活動している団体で、「足利ミュージカル研究科」は「足利ミュージカル」団員や音楽方面を目指す子どもたちの人材養成機関です。

これらの芸術団体を小嶋芸術監督が統括することによって、長期的な視点でカリキュラムを組むことができている。その結果、今年度の研究科生の中には、音楽大学進学の実を叶えた子どもがいます。小嶋芸術監督が「足利ミュージカル」団員と一緒に子どもたちの個性を引き出す体制を作っていることで、保護者からの信頼が厚く、研究科の継続参加に繋がり、夢を叶えることにつながったと考えます。また、サポーター数が他の2つの芸術団体に比べて多く、地域から応援されている団体であると言えます。

さらに、小嶋芸術監督の知名度の高さから、足利市外から足利ミュージカル研究科への参加がある他、隣接する群馬県太田市では、本活動の影響を受け、同監督のもと市民参加型ミュージカルを定期開催するようになりました。其処へ足利ミュージカル研究科生の参加という相乗効果が生まれ、当館が文化芸術の拠点となり舞台芸術に参加する人口が増えています。

○事業3 「足利オペラ・リリカ研究科第12期」

当館は、芸術団体「足利オペラ・リリカ」と「足利オペラ・リリカ研究科」を常設しています。これらの事業を統括しているのが、大隅智佳子音楽監督です。参加者のほとんどが市外の方であるため、声楽のスキルを身につけるだけでなく、足利市民に親しんでもらうために、小学校向けのアウトリーチや未就学児向けのコンサート、市民参加型の第九演奏会への参加など、研究科生と地域の人々が交流できるようプログラムを組みました。

その結果、研究科生が市民合唱団員と地元の銘菓で休憩し談笑する姿や、レンタサイクルで市内を観光したり、修了演奏会等に招待した親族・友人を市内の名所に案内する様子がみられ、芸術を通じた人々の交流に寄与することができました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○事業1「足利ユースオーケストラ 2023」

今年度は、定例のオータムコンサート、定期演奏会に加え、アウトリーチ演奏会を3回行いました。観客アンケートでは、素晴らしい活動であるとの高評価を多数いただき、〈生で聴く演奏がこんなに素晴らしいことと感動〉〈とても素晴らしい体験、今日は心豊かに過ごそうと思う〉〈素敵なハーモニーに癒され元気を頂いた〉他、子どもたちへの賛辞が綴られていました。

定期演奏会のアンケートでは〈ユースオーケストラに参加したくなった〉との子どもたちの回答が10.2%あり、〈将来のプロ演奏家を養成するような団体になってほしい〉と期待する声も30.1%に上りました。また、年間活動について団員・保護者を対象にしたアンケートを実施しましたが、現在の活動方針や講師に対して高い満足度が示され、今後も地域の文化芸術の発展に寄与していける事業であるといえます。

○事業2「足利ミュージカル研究科第12期」

修了公演は、その稽古の様子が密着番組として地元テレビ局（わたらせテレビ）で6日間にわたり放映されて反響を呼びました。公演は、観客から高い評価を頂き、その観客アンケート集計から、市外・県外からの来場者が40%以上に上り、家族・友人と来た人が85%で、年齢層も10才以下から70代以上まで多岐にわたることから、あらゆる層が楽しみ、応援してくれていることが窺えます。

研究科生は、当館の芸術団体「足利ミュージカル」の定期演奏会に出演したことで、これまで以上に成長が見られ、音楽大学進学や、宝塚音楽学校に挑戦するなどの芸術活動を志望する子どもが増えました。今後も市民の期待に応えられる事業であると考えられます。

○事業3「足利オペラ・リリカ研究科第12期」

修了公演は、第12期生として音大生1名、音大卒業生3名の研究科生が10か月間の講習の成果を十分に発揮して観客を魅了しました。

観客アンケートには〈毎年この公演を楽しみにしています。素晴らしい歌声をもっと多くの人に聴いてもらいたいと思います。足利でオペラが聴けるのは、有難いです。〉〈低価格で手頃にオペラを鑑賞できて、素晴らしい企画だと思います。〉とあり、一地方で低料金でオペラに触れられる貴重な機会を提供できました。

また、養成プログラムの一環として、市内小中学校音楽教室や、地域創造レターNo.338に掲載された「0歳もいっしょに！はじめてコンサート」に出演し、地域の子どもの情操教育に貢献しました。観客アンケートには〈音楽の指導者として足利で活躍して欲しい〉との声が複数寄せられ、その活躍が期待されています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

いずれの事業も約10年に亘り活動を継続しており、活動10周年を機にPDCAを実施しています。今年度はそのPDCAを踏まえた事業を実施し、再度PDCAをすることによって、今後の課題を改めて発見できました。

○事業1「足利ユースオーケストラ2023」

足利ユースオーケストラ団員、講師、運営委員会、保護者によるPDCAが実施されています。今年度は足利市近隣地域からの参加者数、サポーター数、アウトリーチ依頼数が増加したことから、今後の活動は発展的といえます。今後、より積極的な広報活動に努めます。今年度の広報物は、当館の芸術団体「足利カンマーオーケスター」の団員にデザインを依頼することによって、子どもたちの関心をひく親しみやすいものに一新しました。それを運営委員会や保護者会と協力して広域に配布したことで、3月の時点から活動に参加した子どもがいました。

また、年2回開催している演奏会では当団体の卒団生が出演できる環境をつくっています。これにより進学・就職等で音楽活動が停止することなく継続的に活動ができるように支援しています。

○事業2「足利ミュージカル研究科 第12期」

参加者の1年間の練習の成果を披露する修了公演を実施しています。例年、入場者の半数以上は参加者の保護者とサポーターやリピーターが占めていました。しかし、今年度は保護者・サポーター・リピーターと初めて鑑賞した人の割合がほぼ同数でした。新規鑑賞者の増加により、さらに新規の関係者を呼び込める可能性があり、子どもが研究科生として参加することが期待できます。

研究科で長年在籍した子どもの中には、研究科を修了後、①当館の芸術団体「足利ミュージカル」への入団を目指す、②音楽大学への進学、③文化芸術に関係する仕事に就職するなど、自身の夢を追う子が増えています。今年度も修了生4名のうち1名が音楽大学に進学します。当館が芸術団体を所有しているという特徴と今年度の進路状況を鑑み、研究科生に俳優だけでなく照明・音響・舞台などの公演に関わるあらゆる役割を体験できるカリキュラムを創ることで、進路の可能性を広げます。これにより、修了生が将来、本事業に俳優、演技等指導者以外にも舞台・照明・音響スタッフとして参加する可能性が生まれます。

○事業3「足利オペラ・リリカ研究科 第12期」

研究科生のほとんどは足利市外の方ですが、声楽のスキルを身につけ修了演奏会で披露するという活動だけでなく、市内小学校へのアウトリーチや、未就学児向けコンサート、市民参加型の定期演奏会等に出演することによって、地域の人々と交友関係を育んできました。今年度は市民合唱団との合同出演に加えて、市内の小学生との出演機会があり、研究科生はその目標になろうと研鑽に努めました。研究科生の中には3年以上在籍する方や、修了後も当館の芸術団体「足利オペラ・リリカ」の定期演奏会や本事業の修了演奏会に出演する方がいて市の交流人口の増加に寄与している事業といえます。

今後は従来の声楽のプロを目指すコースに加えて、大人が気軽に参加できる声楽コースや、対象を広げ小学生から声楽の基本を学ぶコースなど、地域の需要に応えながら事業を発展させていきます。